FOCUS シンポジウム

次世代瓦会「取り戻せ日本の誇り」

復興と景観形成「名古屋宣言」採択

日本屋根外装工事協会（坪井進悟会長、3支部64社）は3月23日、メルパルク名古屋でシンポジウム「取り戻せ日本の誇り～美しい日本の原風景を次世代に継承するために～」を開催した。協力は次世代の瓦文化・生業のグランドデザインを描く会（同工事協会、㈳全日本瓦工事業連盟、愛知県陶器瓦工業組合、石州瓦工業組合、淡路瓦工業組合、全国いぶし瓦組合連合会）

講　演

瓦が日本人の誇りを取り戻す「甍の波」が景観と観光に貢献する

愛知県の大村秀章知事がゲスト講演を行ったほか、スライドプレゼンテーション「東日本大震災の復旧検証」、パネルディスカッション「東日本大震災の復旧検証と景観整備がもたらす地域経済振興について」が行われ、最後に“名古屋宣言”を採択して幕を閉じた。以下は概略。

名古屋宣言

一．震災復興過程での緊急対応やその後の復興の街づくりへの積極的な取り組み

二．歴史的街並み保存や世界文化遺産指定地域の景観維持に不可欠な伝統的日本瓦屋根保存技術の維持継承

三．国の重要政策の一つである国際観光振興（ビジットジャパン）の景観的魅力を支える日本瓦屋根の重要性に対する国や自治体、市民、観光業会、まちづくり専門家等への理解醸成と連携したアピール

（原文ママ）

趣旨

日本屋根外装工事協会／坪井進悟会長

日本人の誇りを取り戻す重要なアイテムの一つが日本瓦の景観。次世代瓦会の役割は、日本瓦による景観形成のため、国民目線に立った政策立案・実行すること。

㈳全日本瓦工事業連盟／山田勝雄理事長

瓦のPRだけではなく日本の景観を守り、緑豊かな日本の美しい原風景を取り戻すためには、1400年以上の伝統を持つ日本瓦の屋根は欠くことのできない重要な要素。

瓦の家に誰もが住みたい

愛知県／大村秀章知事

在来型の日本の風土に合った瓦の家に住みたいと誰もが思っている。日本の風土に合った住宅をしっかり後押ししていかなければならない。

産業振興、企業振興で企業立地を進めることで雇用が生まれる。人が住めば必ず家が建つ。そこで、市街化調整区域でも宅地開発ができるように、条例改正し去年の10月からスタートした。もうすぐ第1号を認定できる。

愛知県が元気に頑張ることが東日本の復興に繋がると考えている。愛知県が代表する焼き物、窯業。瓦、陶磁器との連携も考え、文化・芸術としても盛り上げていきたい。

都市計画の視点から

NPO日本都市計画家協会／井上忠佳理事

東日本大震災の津波被災地の復興では、高台移転などで古い町並みの保存は検討されているが、急いでいるということもあって、屋根はあまり議論されていない。復興の計画を立てる段階で具体的な提案、説得をしなければならない。

町づくりのなかで屋根の重要性を訴える際、業界の中だけでやっていてもしょうがない。電柱をなくそう、緑化しようなど、幅広く町づくり全体、市民の中に入っていくことが必要。専門家の意見を待っていて、各地に町づくりのグループがある。そういった所に出かけて行って説得しないと、それぞれの議会も市民も納得しない。そうしないと屋根は忘れられてしまう。

日本はこれから人口が減って産業がどんどん小さくなっていく。そういった中で観光産業は非常に重要。屋根の重要性やどういう問題を抱えていて、どうして欲しいかといったことも政府や各市町村に提言していくことが必要。

山田勝雄理事長（㈳全日本瓦工事業連盟＝現一般社団法人）

大村秀章知事（愛知県）

シンポジウムには業界関係者ら200名が参加した

日本人であるということ

㈱ゲイン／藤井英明社長

「こいのぼり」という曲がある。甍の波と雲の波　重なる波の中空を橘かおる朝風に　高く泳ぐや鯉のぼり――。所属している合唱団で、60代は「甍」を書けて読めてイメージも浮かぶ。50代は読めてイメージが浮かぶ。40代は何とか読めるがイメージは浮かばない。30代はイメージも浮かばない。

フランスでは、小学生のうちからワインについて学ぶ。国境は物理的、地理的な問題だけではない。国が残り、繁栄するということは、フランス人がフランス人であるということを意識することだと考えているから。美術品、歴史、文学などに加え、フレンチが分かること、フランスワインが分かること、フランスの水の味覚があること、これらがフランス人であることの証であり、そのことが一番の防衛に繋がると知っている。

日本を振り返ってみると、かなり怪しい。食べ物に関しては相当怪しいことになっているし、「甍の波」という原風景についても、20代、10代、そして一桁代の子供にはほとんどイメージはわかないと思う。これは実は大変なこと。このまま進んだら日本は日本という国じゃなくなってしまう。

太陽電池に美観を加味

カネカソーラー販売㈱／八田幹雄社長

太陽電池はあまり良い状況ではなく、3月末決算はおそらく世界中のメーカーが大赤字。中国部材の価格が世界中に蔓延、国策でやっている中国メーカーに完全に負けてしまった。しかし、世界一の効率を目指し、まだまだ日本の太陽電池メーカーは技術で勝負していく。

美観について、日本の屋根材とマッチするデザイン性をずっと追い求めてきた。イタリア、フランスという国では美観と太陽電池とのマッチを要求されてきた。瓦をベースとした支持瓦を作るなど、美観を太陽電池に加味しながら、なんとか中国勢に勝ちたい。

井上忠佳理事（NPO日本都市計画家協会）

藤井英明代表取締役（㈱ゲイン）

八田幹雄代表取締役社長（カネカソーラー販売㈱）